

### 第3回 須崎港港湾脱炭素化推進協議会

No.	発言内容
1	<p>【質問】資料2のP6の部分で、CO2削減量と削減目標の関係はどうなっているか。また、事業の効果について、例でいうと、トラック協会の430台というのはすべてハイブリット化、EV化を行うのか。</p> <p>【回答】中期で削減率16%と目標を掲げており、今ある技術や取組可能なものを企業にヒアリングをし、16%を超える削減を見込める事業を取りまとめたもの。また、トラックの台数については累計台数であり、化石燃料の削減率のような形でとらえてもらえばと思う。</p>
2	<p>【意見】港湾の利用が活発な須崎港でカーボンニュートラルに対する取組がなされていることを周知していただきたい。企業の努力で、第2回協議会の想定を上回る削減をしていることは評価に値する。</p> <p>【回答】企業の取組に関するPRに関して、この計画を公表し、県民に周知していきたいと考えている。</p>
3	<p>【意見】本計画は、目標を立てて、それを進捗管理していくことが重要。定期的に削減量を把握していく必要がある。今後も県がそのような場所を持つか、独自にデータを収集する必要がある。</p> <p>【回答】進捗管理について、次の今後のスケジュールの方でお話したい。</p>
4	<p>【意見】脱炭素目標の達成は技術革新の進展による部分が大きく、現時点で具体的に何ができるか断言するのは難しい。特に、カーボンゼロ（2050年目標）は厳しく、行政の支援や情報共有が不可欠。</p> <p>技術の発展や地域の連携を活かしながら、各立場で削減に向けた取り組みを進めることが重要であり、支援策の整備も求められる。港湾における排出は企業単独では解決が難しいため、関係者全体で適切な仕組みを考え、目標達成に向けて協力を進めることが求められる。引き続き、事務局のサポートに期待する。</p> <p>【回答】了解した。</p>
5	<p>【質問】PRに関して、計画を立てて取り組んでいることを認証する制度があるのではないかと記憶している。CNP関連のものだったと思うが、環境への取り組みを評価する仕組みはあるか？</p> <p>【回答】国土交通省ではCO2削減に関する国際的な認証制度を検討中だが、コンテナターミナル限定の枠組みとなっている。そのため、別のPR手法を検討する必要がある。国や高知県、企業が連携しながら対応を進めていきたい。</p>
6	<p>【質問】計画のロードマップに「全員が情報収集し、連携する」と明記するのは可能か。</p> <p>【回答】この計画自体が国土交通省のマニュアルに沿って作成しているため、この中に記載できるかどうかは調整する。</p> <p>【意見】マニュアル通り行うことが正しいとは思わない。協議会で出た意見として積極的に反映すべき。</p> <p>【回答】記載については、現在審査中でもあるので、調整しながらそういう部分の記載が可能であれば検討したい</p>
7	<p>【質問】資料2のP6で、工場事業所における再エネ由来電力への転換の部分で事業の効果が検討中と書かれているが、目標として具体的に書けないということなのか。</p> <p>【回答】工場・事業所の再エネ電力転換規模について、本来は設備の詳細を記載すべきだが、現在は事業所全体の使用電力より概算しているため検討中としている。企業ごとの取組状況を把握、実施可能範囲を精査しながら、より正確な内容にしていきたい。</p>

No.	発言内容
8	【質問】2027年の短期目標の検証について、開催時期を検討する話があったが、2027年の排出量データが判明するのはもっと後になるのではないかと懸念しているが、その点はどのように考えているか。
	【回答】企業へのアンケートやヒアリングから直に数値を得て排出量を計上しているため、翌年には開催できるかと思われる。
9	【質問】今後の取組の部分は計画書に記載されているか。
	【回答】本編のP23に記載している。
	【意見】アンケートなどでデータを取得できるのであれば、それを何らかの形で共有したらどうか。
	【回答】了解した。検討する。
10	【意見】資料にCCUSの将来構想が示されていたが、具体化の進捗について共有可能な範囲で知りたい。CO2の液化・地中貯蔵に伴い、海上輸送が想定されると思われるため、港湾空港部としても関心を持っている。
	【回答】企業のヒアリングでは、グループ全体としてCCUSの実証試験を行っているため、取り組みがあることは記載している。具体的な進展は現時点ではない。
	【意見】今後、高知工場で実施される際は、共有していただきたい。